

⑪公開特許公報(A) 昭62-241187

⑫Int.Cl.

G 11 B 23/03
 B 65 D 55/02
 85/00
 G 11 B 23/04

識別記号

府内整理番号

Z-7177-5D
 6929-3E
 7405-3E
 Z-7177-5D

⑬公開 昭和62年(1987)10月21日

審査請求 未請求 発明の数 2 (全12頁)

⑭発明の名称 コンパクトディスクあるいはテープカセットを収容する箱用封印機構

⑮特願 昭61-268764

⑯出願 昭61(1986)11月13日

優先権主張 ⑰1985年11月13日⑯スウェーデン(SE)⑮8505353-6
 ⑰1986年11月5日⑯欧州特許機構(E P)⑮86850387.1

⑱発明者 チエル オーケ ベル スウェーデン国, エス-231 00 トレルボール, シエグ
 テイル ホルムグレン リエ, ノレーンイエン 5

⑲出願人 エム ドベルドベー デンマーク国, デーコー-7870 グリンゲレ, ドゥルプス
 トレイディング アン ベイ 33
 パーツゼルスカブ

⑳代理人 弁理士 青木 朗 外4名

明細書

1. 発明の名称

コンパクトディスクあるいはテープカセット
 を収容する箱用封印機構

2. 特許請求の範囲

1. 互いに丁番によって連結された2個の長方形の箱形ハーフ部分を含んで成るコンパクトディスクあるいはテープカセットを収納する箱(10, 11)用封印機構において、該封印機構が、箱が閉鎖位置にある時に、2つのハーフ部分(10, 11)に係合するように箱の外側で箱に付与されることになる封鎖機素(14, 15, 16)と、箱を積極的にロックするための掛け金機構(18, 19; 20)を含んで成り、前記掛け金機構のロックを外して箱から封鎖機素の係合を外す作動が、特別の道具を用いて行うことができるよう構成されていることを特徴とする封印機構。

2. 前記封鎖機素が前記箱の片方のハーフ部分(10)の外側に係合されるU形状の弓状部材を含んで成り、弓状部材の片方の翼(15)が箱の他方のハ

ーフ部分(11)の端縁部の孔(13)に係合することができる突起部(17)を有し、前記他方のハーフ部分(11)の反対側の端縁の孔(13)にスナップ作用で係合するため掛け金機構(18, 19; 20)が封鎖用弓状部材の他の翼(16)に設けられており、前記掛け金機構が、箱から封鎖用弓状部材の係合を外すために必要な孔との係合外しを特別な道具を用いて行うよう構成されている特許請求の範囲第1項記載の封印機構。

3. 前記封鎖機素が、その2つの向合った端縁の平たい側面上に箱(10, 11)が畳まれるように構成されたフレームであり、前記掛け金機構(18, 19; 20)が前記端縁の片方の孔(13)にスナップ作用で係合するよう構成されており、且つ箱から封鎖用フレームの係合を外すために必要な孔との係合外しを特別な道具を用いて行うよう構成されている特許請求の範囲第1項記載の封印機構。

4. 保護機構のセンサが前記封鎖機素に設けられている特許請求の範囲第1項から第3項迄の何れか1項に記載の封印機構。

5. 掛け金機構がU形状の雄型掛け金機素を含んで成り、該掛け金機素の翼は弾性的に互いに押付合うことができ、前記掛け金機素の翼の外側に面している端縁上に、該掛け金機素を受入れるために封鎖機素に形成されている孔(23)の凹部に係合するための突出部(21)が設けられている特許請求の範囲第1項から第4項迄の何れか1項に記載の封印機構。

6. 2つの突起部(21)が、封鎖機素に形成されている孔(23)の対応する凹部に協働するために、雄型掛け金機素の長手方向に間隔をあけて前記それぞれの翼上に形成されている特許請求の範囲第5項記載の封印機構。

7. 前記雄型掛け金機素(20)の翼が、翼が弾性的に押付合される時に、前記特別の道具の一部を形成する引出し機素(27)と係合するための肩部(22)を2つの翼の互いに面した端縁上に有する特許請求の範囲第5項又は第6項に記載の封印機構。

8. 雄型掛け金部材(20)の2つの翼の間の位置に片寄せされているスプリングから成るスペーサ

(32)を含んで成り、該スペーサ(32)が、前記封鎖機素に形成された孔内での係合された位置からの2つの翼の偏位を防ぐ特許請求の範囲第5項から第7項迄の何れか1項に記載の封印機構。

9. 雄型掛け金部材の係合外れを防ぐために、翼間で雄型掛け金部材(20)上に設けられ、且つ封鎖機素に形成された孔(23)の壁内で肩部(73, 74)に係合する少くとも1本の弾性フック(71, 72)を前記雄型掛け金部材が含んで成る特許請求の範囲第5項から第8項迄の何れか1項に記載の封印機構。

10. 互いに丁番によって連結された2個の長方形のハーフ部分を含んで成るコンパクトディスクあるいはテープカセットを収納する箱用安全装置であって、箱に付与されて箱が開くことを防ぐ封鎖機素と、箱上に封鎖機素を保持する掛け金機構のロックを外すための道具を含んで成る安全装置。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明はコンパクトディスクあるいは例え

イクロカセットビデオカセットおよびデジタルオディオカセットを含むテープカセットを収納する箱用封印機構に関する。前記箱は通常互いに丁番によって連結された2つの長方形の箱形ハーフ部分から作られている。

〔従来の技術と発明が解決しようとする問題点〕

音楽用ディスクが販売される店において、顧客は、彼等が買おうとするディスクを容易且つ気持よく選択できるように、ディスクに自由に接近できるようになっている。その際、不徳な人達がディスクに対する支払を行うことなくディスクを私物化しようとする誘惑にかられやすい。このようなディスクの大きさのために、店からこれら通常のディスクを他人に見付けられずに持出すことは困難である。しかしコンパクトディスクが市場に投入されることによって、音楽用ディスク店における窃盗の問題は増大されている。コンパクトディスクの直径は12cm以下であり、したがって容易に隠すことができる。さらにコンパクトディ

スクは従来からの音楽用ディスクに比してより効果であるので、コンパクトディスクの窃盗は店主にとってより考慮すべき問題である。

保護手段として、もしもある人間が最初に付与されたマーキングがその作用を消失されることなしに箱に入れられたディスクを店から持出すことを試みる場合には、保護システムを作動するマーキングを箱に設けることは可能である。しかし容易に理解されるように、箱からディスクを取出してディスクのみを持ち、一方空になった箱を棚の上に残しておいて保護システムを通過する事を試みる場合がある。したがって、他の方法で箱を開けて箱からディスクを取出すことを困難にする何等かの形の封印機構を前述のようなマーキングと組合すことが明らかに必要である。

コンパクトディスクに関して遭遇するこの種問題はカセットテープやビデオテープを収納する箱に対しても生ずる。

したがって本発明は、箱が容易に開けられず、如何なる場合も相当な困難性を伴わない限り開け

ることができないようなディスク収容用箱の効果的な封印機構を提供することを目的とする。同時に、前記封印機構は箱を実質的に修正することなしに用いることができ、且つ封印機構を妥当なコストで作ることができるものであることが必要である。さらに封印機構が箱を包むプラスチックフィルムやセロファン製の透明包装材を破る必要なしに箱に付与することができるものであることが望ましい。

(問題点を解決するための手段)

前述の要求を満足させるために、本発明は箱が閉鎖位置にある時に、2つのハーフ部分に係合するように箱の外側で箱に付与されることになる封鎖機素と、箱を積極的にロックするための掛け金機構を含んで成り、前記掛け金機構のロックを外して箱から封鎖機素の係合を外す作動が、特別の道具を用いて行うことができるよう構成されていることを特徴とする封印機構を提供する。

このタイプの封印機構では、封鎖機素には、例

えば封鎖機素が作られている材料の中にマーキングを成形するか、合ませておくことによって、あるいは封鎖機素がカセットに付与されたときに利用できないように、マーキングを箱に面した封鎖機素の側表面に付与することによってマーキングを取り外すことができないようにした、保護システムを作動するマーキングを容易に設けることができる。

さらに、封鎖機素は多回使用できるように作られているとよい。なぜならば支払が行われた時に、他の理由で封鎖機素が破られたり破損されたりすることなしに、封鎖機素は特別の道具で箱から取外すことができるからである。

本発明は又、箱に付与されて箱が開くことを防ぐ封鎖機素と、箱上に封鎖機素を保持する掛け金機構のロックを外すための特別の道具を含んで成る、コンパクトディスクあるいはテーブルセットを収納する箱用安全装置を提供する。

以下余白

(実施例)

本発明を詳細に説明するために、本発明の実施例を添付図面を参照して以下に詳述する。

複数の図面中で第1図から第3図に示された箱はコンパクトディスクを収納するために一般に知られているタイプのものである。箱は軸12を中心として回動運動するために丁番によって相互連結されている2つのハーフ部分10、11から成る。片方のハーフ部分10はその中にコンパクトディスクを受入れるように作られており、一方の他のハーフ部分11はハーフ部分10上のカバーを形成している。箱は全体としてプラスチック材料から作られており、箱内のディスク上の装飾および／又は情報が、箱の内側に紙あるいはプラスチック製の印刷された挿入物をおくことによって見ることができるように、少くともハーフ部分11が透明に作られている。この挿入物を保持するために、ハーフ部分11はカバー上の2つの端縁フランジ上に2対の向合ったフランジを設けることができ、それらフランジのそれぞれは製造上の理由

から端縁孔13と組合されている。

本発明の封印機構はU形状の封鎖用の弓状部材を含んで成り、この弓状部材は、クラックを生ずること無しにある程度変形できるようにある程度の弾性とスプリング性を有する透明性あるいは半透明性の耐久性プラスチック材料から作られている。適切なプラスチック材料はポリカーボネイト、ポリエチレンおよびポリプロピレンを含んで成るグループから選定される。しかしながらこれら弓状部材用としてスチールあるいはその他の金属を用いることができる。弓状部材は平たいウエブ14とそのウエブ14から垂直に延びる2つの翼15、16を含んで成る。片方の翼15からは翼15から内側に垂直にフランジ17が延びており、他の翼16は2つのソケット18を形成し、それぞれのソケット18からは外側に向ったフック19が設けられている。

弓状部材のウエブ14をハーフ部分10の外側表面上に位置決めし、一方弓状部材の片方の翼上のフランジ17を2つの向合った端縁孔13の片

方、すなわちこの目的のために特に設けられたハーフ部分11の端縁孔13に挿入することによって、弓状部材は閉じられた箱に付与される。他の置上に設けられた2つのソケットは反対側の端縁孔すなわちこの目的のために特に設けられた端縁孔13に挿入され、それによってソケットのフック19はこの孔の端縁にスナップ作用で係合して、ソケットが互いに向って弾性的に動くことを弓状部材は可能にする。

このようにすることによって、封鎖用の弓状部材は2つのハーフ部分と一緒に保ち、何等かの手段を用いない限り箱が開くことを防ぐ。箱を開くことは、特別の道具が封鎖用弓状部材を除くために利用されない限り、箱のフレームを破壊しなければ行うこととはできない。

しかしながら、支払が行われた時には、特別な道具を用いることによって、封鎖用弓状部材はキャッシャによって取除くことができる。すなわち2つのソケット18は2つのフックの孔13の端縁との係合を外すために前記特別の道具を用いて

互いに向って押付けられる。このタイプの道具は複数のピンを含んで成り、そのピンをソケットの中に挿入し、フックを形成しているスナップの端部が互いに相手側に向って移動するようにピンを傾ければよい。

前述のように、封鎖用弓状部材には保護システムを作動するためのマーキングを設けることができる。このようなマーキングはフレーム材料の中に埋没させて設けることができるあるいは、弓状部材のウエブの側表面に設けることができる。後者の場合、弓状部材の作動位置において前記側表面は箱に面しているのでマーキングが損傷されることはない。

封鎖用機素が前述のような弓状部材として作られることが必ずしも必要ではない。なぜならば封鎖用機素が箱の端縁に沿って箱の周囲に延びる閉鎖フレームを含んで成り、そのフレームが少くともある範囲において箱の2つのハーフ部分を抱きしめるようなリ形状の断面形状に作られているものであってもよい。このフレームはその作動位置

において掛け金機構を用いて一緒に保たれており、フレームは前述の特別な道具を用いて掛け金機構を外すことによって開くことができる。

複数のフック19を具備したソケット18を有する掛け金機構の他の例が第4図から第8図に示される。この掛け金機構はU形状の雄型機素20を有し、この機素20は機素の両方の翼が互いに向って押付け合うことが可能な材料から作られている。それぞれの翼はその外側端縁上に2つの突出部21を有し、先端側の突出部21の内側端縁には肩部22が形成されている。封鎖用弓状部材の図16には、雄型機素が孔の中に挿入された時に、その中に突出部21を受入れる凹部24を有する通し孔23が設けられている。互いに間違する2つの側方開口部25が外側から孔23迄延びる。

封鎖用弓状部材は、複数の突出部21がスナップ作用によって凹部24の中に係合できるように孔23の中に押込まれている雄型掛け金機素によってロックされ、機素は第5図に示されるように

箱のハーフ部分10の端縁孔13の中に突出している。かくして、封鎖用弓状部材がロックされる。2本のピンを開口部25に挿入し、これらのピンを機素20の翼に向って押すことによって、突出部21が凹部24との係合から外れ、一方キー27を雄型掛け金部材の中に挿入してキー27が置かれているヘッド28を係合させ、雄型掛け金機素の翼部を弾性的に互いに押付け合さることによって封鎖用弓状部材のロックを外すことができる。雄型掛け金機素が第6図に示した位置に到達すると、この機素上の2つの下側突出物はスナップ作用によって孔23の2つの上側凹部に係合し、その結果雄型掛け金機素のキーとの係合が外され、雄型掛け金機素はロックされていない位置に保たれ、その位置において、箱から封鎖用弓状部材を外すことを可能にする。箱に再びロック用弓状部材をロックすることが望まれる時には、雄型掛け金機素が第5図に示された位置迄孔23の中に押込まれる。雄型掛け金機素は、前述のようにその機素と協働するピン26およびキー27を含んで

成る特別の道具を用いることなしには、ロックを外すことは決してできない。

雄型掛け金機素の翼の端縁表面はそれぞれ突出部28を形成する。これら突出部28は、機素の翼部が互いに押付け合された時に突出部がオーバーラップすることができるよう、横方向にずれて配置されており、且つこれら突出部は翼が弾性に押付けられる時に雄型掛け金機素を安定にする案内部材を形成する。

雄型掛け金機素20はウエブの下側に沿って延び且つ翼の外側端縁に沿って部分的に延びるスチールストリップ26によって補強することができる。スチールストリップ26は30の位置において機素中にフック状に曲げられる。

第9図は雄型掛け金機素20に付与することのできるある種の改良を示す。機素20のウエブの端部のそれぞれにおいて、横方向の鋭い端縁31が設けられ、この鋭い端縁31は雄型掛け金部材がロック作動位置に向って孔23の中に押込まれる時に、箱を包んでいるプラスチックフィルムある

るいはセロファン製の包装を破るのに役立つ。

第9図の実施例では、この場合はレジィスタにある機素20の翼上の内側突出部28間にスペーサを形成するボルト32が設けられている。このボルトはこの位置にスプリング機素33によって維持される。この配置によって、雄型掛け金機素が作動位置にある時に、突出部21が凹部24に係合する位置に2つの翼は積極的に保持される。しかしながらボルト32は、肩部22に係合するために機素20内に動かされるキー27によって突出部28間の位置から移動させることができる。

第10図から第13図に示された封鎖用機素の実施例において、前記機素はフレームを形成し、そのフレームの端部壁15, 16は、封鎖用フレームが箱に付与された時に、箱10の2つの向合った端縁表面に沿って延びている。2つのウエブ34, 35が端部壁15, 16の端の部分で端部壁15, 16の間に延び、前記端の部分は箱の向合った平たい側部に配置されることになる。封鎖用フレームが箱に付与された時に箱の向合った端縁表面の他の一対

の端縁表面の1つをカバーするために、端部壁15, 16の間を延び、且つこれらの端部壁を他の端部に接合する側壁36に前記ウエブ14は一体につながる。剛直な三角形のコーナウエブ37がウエブ14に平行に側壁36と端部壁15の間に設けられる。図に見られるように、ウエブ14は幅広い部分を形成し、その部分に保護システムのコイル形成部分が載置されることになる。このウエブは他の多くの形状に作ることができる。端部壁16は雄型掛け金機素20用の孔が設けられる部分において厚い部分38に形成される。

第14図から第18図に図示された装置は第4図から第6図に示された機能原理を応用することによって、第4図から第6図を参照して説明されたタイプの掛け金機構のロックを外すために構成されている。垂直ブラケット40がベースプレート41に載置され、チャンネル付きレール42がその一端でブラケット40の上端にピン43によって回動可能に取付けられる。レールは、箱に付与される第10図から第13図に示されたような

封鎖用フレームを具備したコンパクトディスク用箱をその中に収容する寸法に作られ、且つレールは、端部壁16がチャンネル付きレール42の底部と係合した時に封鎖用フレームの部分38をその中に収容する底部凹部44を形成する。レバー45が又レール45の場合と同軸を中心として移動するためにピン43上に回動可能に載置され、しかしこれとは別にレバー45の自由端部にはキー27が設けられている。レールとレバー間に係合されたらせんばね48の付勢力を受けながらレバーの自由端部でレバー45がレールの底部の下側に係合されている時に、キーを受入れるための開口部46がレール42の底部に形成される。ピン43に平行に延びるピン52を用いてブラケット40に回動可能に載置されている支持機素51内に2つのローラ49, 50が回動可能に載置される。ローラ49はレバー45の頂部裏面に係合可能であり、通常は支持機素51と第14図に示すようにその支持機素上に載置されているローラの重量の影響を受けて前記裏面にのっている。ローラ

50はレール42の底部の下側表面に係合可能である。

ブロック53はレール42の片側から垂直に伸びている2本のピン54上で移動可能に案内されピンに沿って移動し、且つブロック53はレールに面しているブロック53の側表面から間隔をあけた関係で平行に突出する2本のベッグ55を有する。これらベッグ55はレールの側壁に近接した開口部56内に受け入れられ且つそれぞれの自由端において互いに向合った面で傾斜した表面57を形成している。室内ローラ58はブロックによって形成された切欠部59内でブロック53に回転可能に載置され、且つ底部プレート41に載置されそこから上方に伸びる室内機素61に形成されたスロット60内に収容される。この室内機素は支持台62を形成し、レール42を第14図に示した位置に通常に保ち、ブロックをレールのこの位置において支持台62に係合させるために、レール42はピン43を中心として時計方向にらせんね63によって片寄せされている。

室内機素61内のスロット60は、レールがスプリング63の付勢力に抗して反時計方向に活動した時に、ブロックにローラ58を介してピン54に沿った移動を与えるために、傾斜した部分60Aと垂直部分60Bを形成する。かくしてブロックは、このようなロールの活動運動中に最初はローラ58がスロット部分60Aを通過する時は第15図に示される位置から第18図に示される位置へ移動され、ローラ58がスロット部分60Bを移動続ける時には第18図の位置に維持される。

第5図に関連して説明したように、翼が彈性的に押付合されるように雄型掛け金機素20の翼に向って圧力を加えることがロックを外す工程のこの段階において必要である。第5図に示されたような2本のピン26を用いる代りに、互いから離れて面しているベッグの端縁表面において雄型掛け金機素の翼に傾斜した端部57を係合させるために、孔64を通して部分38の中に動くようなベッグ55が前述の装置の中に設けられる(第12図)。かくして2本のベッグ55が孔64の

中に動かされた時に、雄型掛け金機素の2つの翼55は互いに向って移動されるようになり、第5図においてピン26を用いて得られた結果と同じ結果を提供する。第17図には、レールが最初の回動した位置において実線で示される。その位置において、第5図を参照して前述したように、肩部22において雄型掛け金機素の翼をキー27のクロスヘッドに係合せるように、第15図の位置から第18図の位置へ室内機構58, 60を介してブロック53は位置換えされ、キーは第17図に示されたように開口部46によって受け入れられた時に雄型掛け金機素の中に突出する。第14図の位置から第17図の位置へのレール42の回転運動は、封鎖用フレームが付与されている箱がレールの底部に係合されて押付けられている時に、スプリング63の片寄せ力に抗してレールを押下げることによって得られ、部分38は前述のように凹部44によって受け入れられている。

もしレールがさらに押下げられると、ローラ50はレール42の底部の下側表面に係合され、

レール42との関係でスプリング48の片寄せ力に抗して反時計方向にピン43を中心とした回転運動をレバー45に与え、その結果キー27は第17図で一点鎖線で示されるように開口部46から部分的に引出されることになる。この運動によって、雄型掛け金機素20に係合されたキー27は第5図および第6図を参照した説明されたように、前記機素20をロックが外される位置に引張る。かくして封鎖用掛け金機素が付与されている箱がレール42から外されると、雄型掛け金機素は第6図に示された位置にあり、封鎖用フレームは再び箱から外すことができる。レールに対する圧力が解放されて箱がレールから外されると装置はスプリング48, 63の片寄せ力の影響下第14図に示された正規の位置へ復帰する。

カセットテープの場合には、孔13(第3図)は封鎖用フレームの係合のために利用できず、たやすくはカセットテープ箱に設けることはできない。したがってこの機素は前述の方法とは別の方でロック可能に箱に係合されなければならない。

如何にしてこのロックが行われるかが、カセットテープ用箱用の封鎖用フレームを示す第19図から第22図を参照して以下に説明する。フレームは端部壁15、16、掛け金機構を収容するために端部壁16によって形成されている厚みのある部分38および側壁36A、36Bを形成する。フレームはウエブ14を有し、ウエブ14は端部壁と側壁に係合しており、その結果フレームは事实上トレーを形成し、そのトレーにおいてウエブが底部を形成し、壁15、16、36A、36Bが側壁を形成している。

三角形のウエブ部分70が、壁15および壁15に接合された壁36A、36Bとの間に形成されたコーナーで、それら壁と一緒に形成されており、これらウエブは第20図および第21図に示されるように、僅かに外側に傾斜して設けられる。かくしてカセットテープ箱は、箱の下側端部をウエブの内側に挿入し、それから箱をフレームの中に動かすことによってフレームの中に配置することができ、その結果箱は完全にフレームによって囲

まれることになる。それから雄型掛け金機素20が、第20図に示すように箱の外側表面に配置するために、前述の方法で部分38に挿入され、かくして箱は封鎖用フレーム内にロックされることになる。

雄型掛け金機素20'は肩部74を有し、この肩部74は、第24図で78で部分的に示された箱に係合することによって機素20'のロック位置を規定している。

この場合における掛け金機素は实际上箱の外側で利用可能であるので、封鎖用フレームの規定外のすなわち認可されないロック外しに対する安全を増加するために、さらに他の係合手段（これは又コンパクトディスク箱用としても使用できる）を提供することを本発明は提案する。第23図および第24図に示すように、雄型掛け金機素20'は実質的に前述したような突起部21の形状をしている。しかしながら、雄型掛け金機素がロックされた位置にある時に、封鎖用フレームの部分38によってそれぞれ形成された孔73と肩部

74と係合するための2つのフック部分71、72を雄型掛け金機素をさらに有する。これらのフック部分は外側から利用できず、したがって封鎖用フレームの規定外のロック外しに対して増加した安全を提供する。フック部分71は、孔73を通過して移動されるピン75を用いて、例えば第14図から第18図に示された装置を例として説明されたブロック53の移動によってその係合を外すことができ、又フック部分72は、フック部分に対して押込まれるウェッジ部材76を用いて、例えば第14図から第18図に示した装置におけるレール42に箱を係合させることによってその係合を外すことができる。掛け金部材は箱の外側上で利用可能であるので、翼が互いに押付合され且つフックの係合が外された時に掛け金部材は係合が外された位置に押されることができる。したがってこの場合にはキー27を用いる必要はない。

4. 図面の簡単な説明

第1図は断面図で部分的に示された封鎖用弓状部材を含んで成る本発明による封印機構が設けら

れた箱の水平断面図、第2図は第1図に示された箱の垂直断面図、第3図は封鎖用弓状部材と箱の垂直拡大部分断面図、第4図は各部分が分離された状態で示された他の掛け金機構の垂直部分側断面図、第5図は封鎖状態にある掛け金機構を示す第4図同様の断面図、第6図はロックが外された状態にある掛け金機構を示す第4図同様の断面図、第7図は掛け金機構の雄型機素の拡大側面図、第8図は第7図に示した雄型機素の斜視図、第9図は係合された状態での掛け金機構の雄型機素の他の実施例を示す側面図、第10図は本発明による封印機構の他の実施例を示す平面図、第11図は第10図の封印機構の側面図、第12図は第9図および第10図に示した封印機構の斜視図、第13図は第12図に示した封印機構の他の側面から見た斜視図、第14図は静置位置にある掛け金機構のロックを外す装置の側面図、第15図は第14図に示した装置の平面図、第16図は第14図および第15図に示した装置の正面図、第17図は作動中における装置を示す第14図と同様の

側面図、第 18 図は作動中における装置を示す第 15 と同様の平面図、第 19 図はカセットテープを組む箱用の封鎖機素の平面図、第 20 図は第 19 図の封鎖機素の側面図、第 21 図は第 19 図および第 20 図に示した封鎖機素の垂直断面図、第 22 図は第 19 図から第 21 図に示した封鎖機素の正面図、第 23 図は掛け金機構の他の雄型機素の側面図、第 24 図は第 23 図の雄型機素をそのロックした位置で有する掛け金機構の垂直断面図である。

10, 11…箱のハーフ部分、

14…ウエブ、15, 16…翼、

18…ソケット、19…フック、

20…雄型掛け金機素。

以下余白

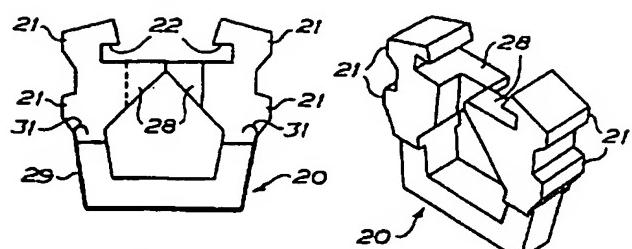


FIG. 7

FIG. 8

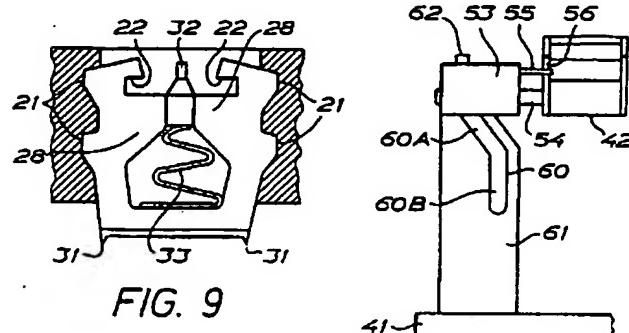


FIG. 9

FIG. 16

前面の構造(内容に変更なし)

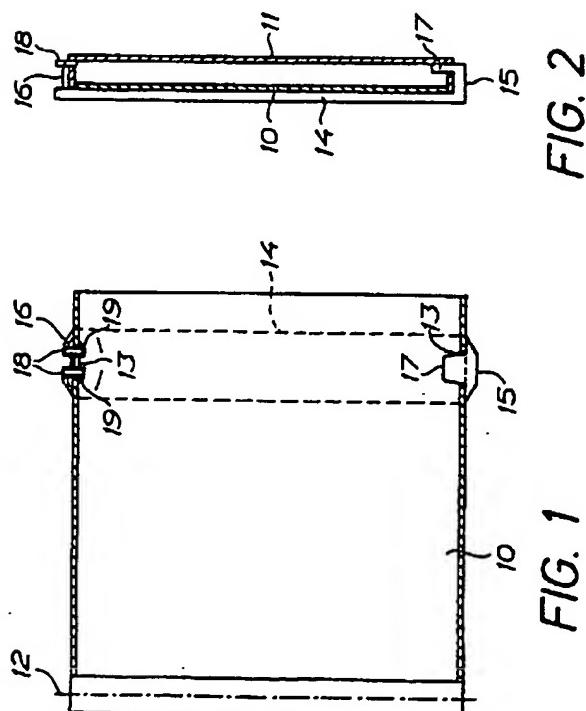


FIG. 1

FIG. 2

FIG. 3

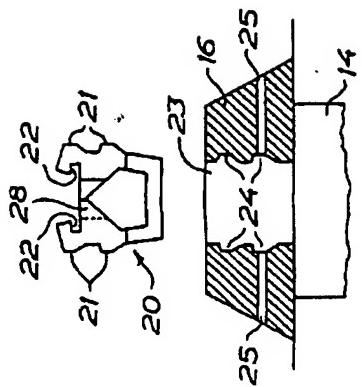


FIG. 4

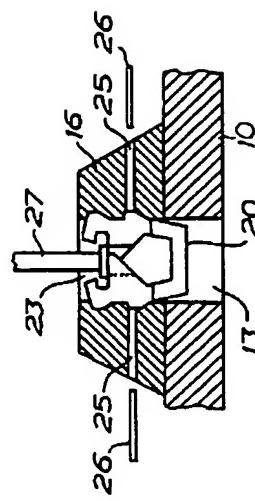


FIG. 5

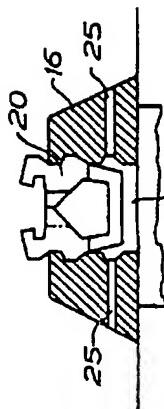


FIG. 6

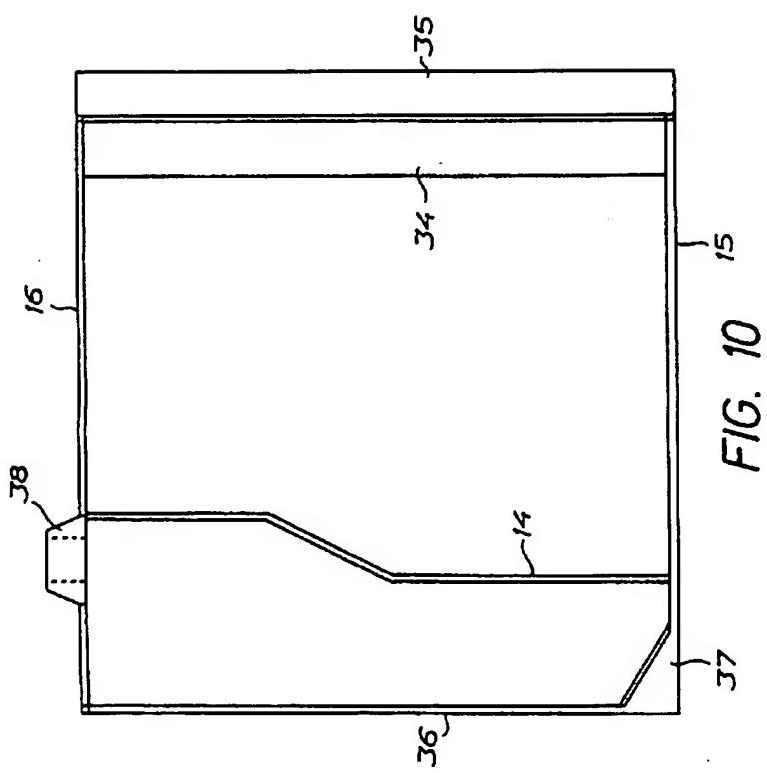


FIG. 10

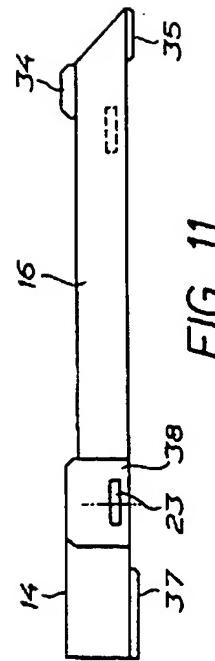


FIG. 11

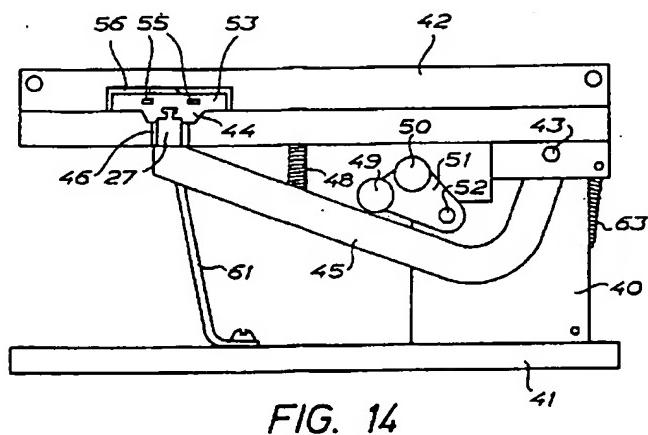
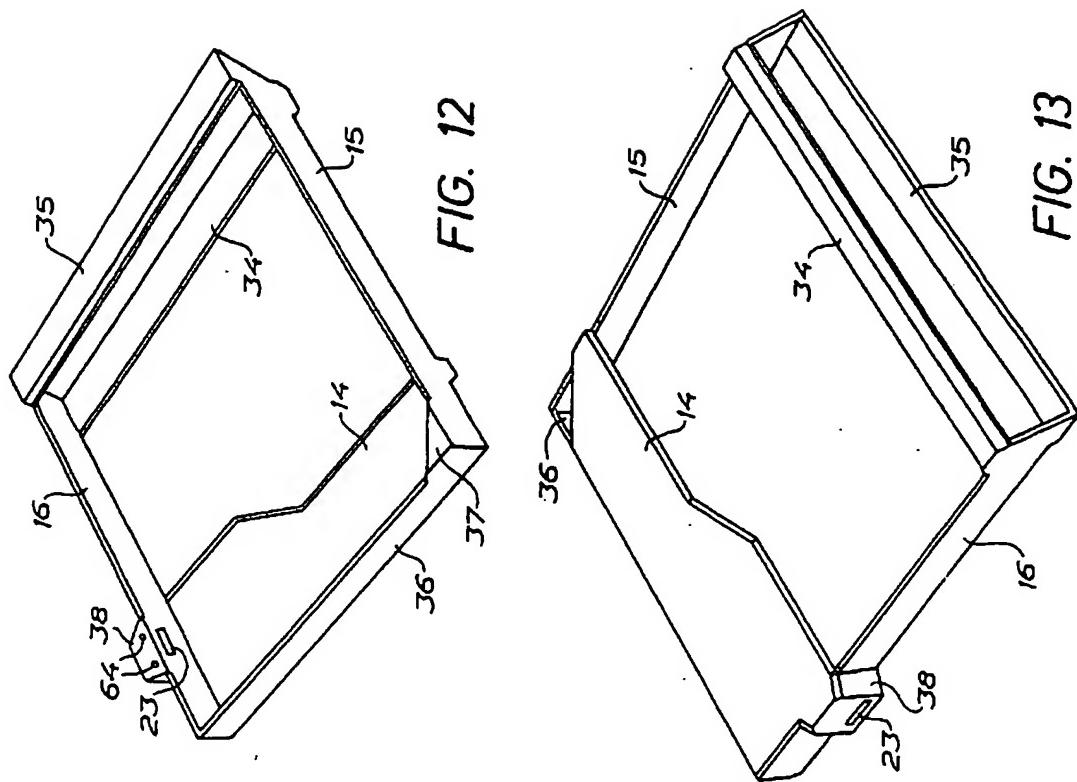


FIG. 14

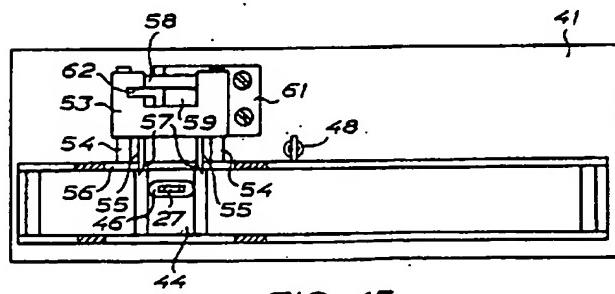


FIG. 15

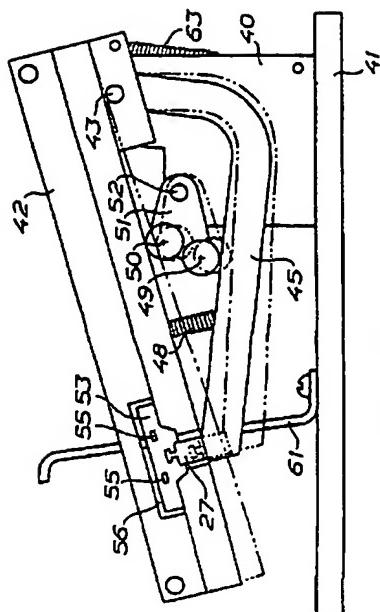


FIG. 17

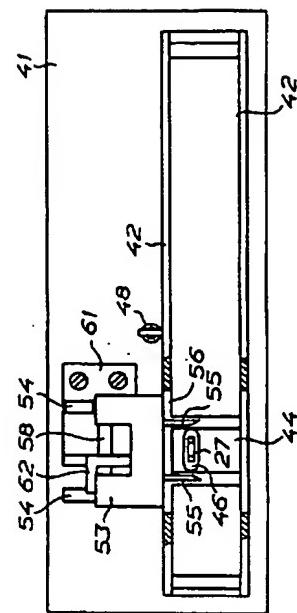


FIG. 18

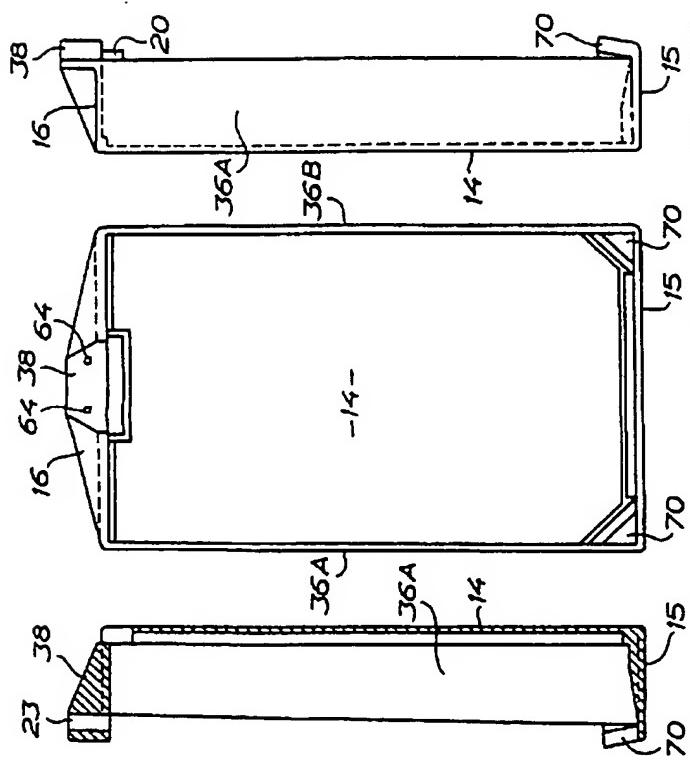


FIG. 19 *FIG.* 20

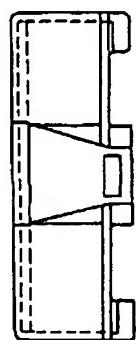


FIG. 22

昭和62年3月23日

特許庁長官 黒田明雄殿

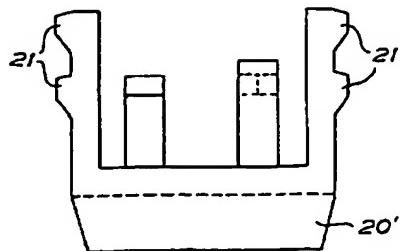


FIG. 23

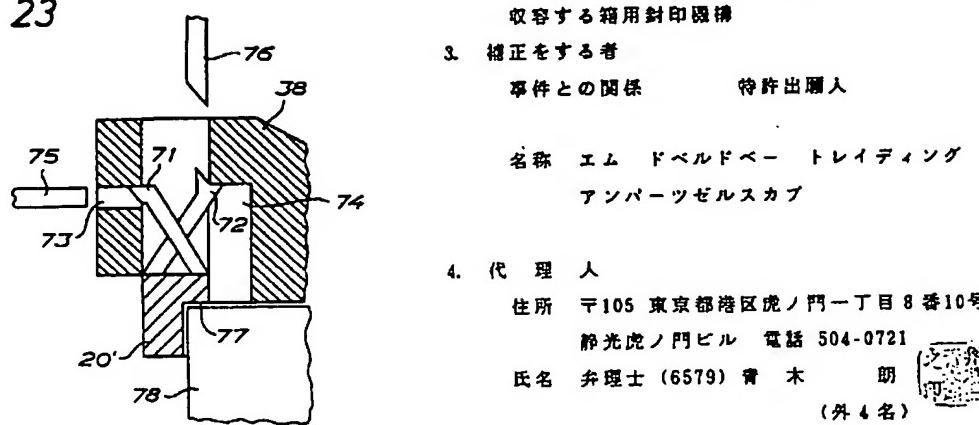


FIG. 24

1. 事件の表示

昭和61年特許願第268764号

2. 発明の名称

コンパクトディスクあるいはテープカセットを
収容する箱用封印機構

3. 捷正をする者

事件との関係 特許出願人

名称 エム・ドベルドベー・トレイディング
アンバーツセルスカブ

4. 代理人

住所 〒105 東京都港区虎ノ門一丁目8番10号

静光虎ノ門ビル 電話 504-0721

氏名 弁理士(6579)青木朗
(外4名)

5. 捷正命令の日付

昭和62年1月27日(発送日)

6. 捷正の対象

(1) 図面

(2) 法人証明書

7. 捷正の内容

(1) 図面の净書(内容に変更なし)

(2) 別紙の通り

8. 添付書類の目録

(1) 净書 図面 1通

(2) 法人証明書及び訳文 各1通